

しろくまだよい - 第19号 -



— 温暖化で絶滅の危機『しろくま』を救え in やつしろし —

編集 / 発行 2009. 10. 28

八代市環境課 TEL33-4114

みなさん、こんにちは。秋真っ只中、みなさん秋を満喫していらっしゃるでしょうか？

車での行楽を計画されている方も多いと思いますが、近頃では、地球温暖化の原因として、車から出る排気ガスについても色々とり上げられるようになりました。そこで、今月は次世代の自動車についての情報をお伝えしたいと思います。

○日本の自動車事情

日本では、1960年代後半から自動車が急速に普及し、乗用車の保有台数は40年間で約10倍になりました。この間、自動車の性能向上や排ガス規制強化などにより、排ガスの質は改善されたものの、排出されるCO₂などの温室効果ガスの総量は大幅に増加しました。

このような現状から、経済対策だけでなく、温室効果ガスの排出削減に効果的であるとして、環境対応車への買い換え・購入に対する補助金や重量税、取得税の減税などが行われています。

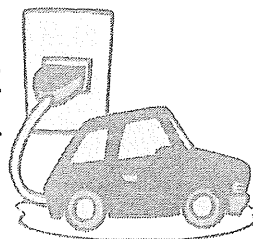
○次世代自動車ってなに？

地球温暖化をはじめとする環境問題に対する意識の向上により、さらに環境にやさしい自動車を求める動きが加速してきました。

新聞などで、取り上げられることが増えてきた、電気自動車（EV）とプラグインハイブリッド（PHV）についてメリット・デメリットを挙げてみました。

《電気自動車》

電気のみで走る自動車。バッテリー、モーターの性能次第では、現在の自動車とかわりない性能を出すことが可能。

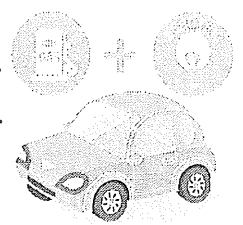


◎メリット：燃料を使用しないため、排気ガスが全く出ない。電気を燃料に換算した場合、現在の車より燃費がよい。

●デメリット：バッテリーの充電は、給油よりも時間がかかる。長距離を移動する場合は、充電場所の確保が課題となる。

《プラグインハイブリッド》

ハイブリッド自動車をベースとし、家庭用のコンセントからでも、モーター用のバッテリーを充電できるようにしたもの。



◎メリット：バッテリーがなくなっても、エンジンで走ることができるため、充電が出来ないときでも、普通の車と同じように使用できる。

●デメリット：エンジンを使用する時に排気ガスが出るため、CO₂排出がゼロではない。

太陽光発電普及率No. 1を目指して!

10月22日に開かれた国連気候変動首脳会合で、鳩山首相が、温室効果ガス削減の中期目標について、「1990年比で2020年までに25%削減を目指す」と表明されました。この目標を達成するためには、産業界だけでなく、一般の世帯においても、温室効果ガスの削減対策に取り組まなければなりません。

一般世帯における取組みの一つとして、太陽光に代表される新エネルギーの更なる利用促進が叫ばれています。日本の一般世帯における太陽光発電の普及率は、以前は世界一でしたが、現在ではドイツに抜かれ第2位となっています。政府はこれを再び世界一にすることを目標の一つに掲げています。また、熊本県は国内第2位の普及率を全国一にしたいとしています。

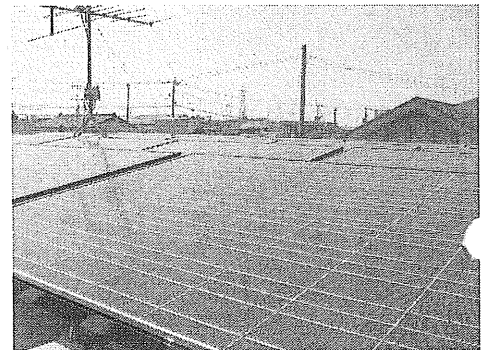
温室効果ガスの削減量試算

○4kWの太陽光発電システムを設置した場合、年間約1,250kgのCO₂を削減することが出来ます。

平均的な1世帯から出るCO₂排出量は年間約5,350kgと試算されていますので、23%の削減効果があります。また、電気だけで考えれば、CO₂排出量は約2,260kgですので、55%の削減効果があるといえます。

○標準的な太陽熱温水器の場合、給湯に必要な熱量の50~60%をまかなうことが可能であるといわれています。給湯から排出されるCO₂は年間で約740kgですので、単純計算で約400kgの削減効果があります。

※使用した数値は、太陽光発電協会、全国温暖化防止活動推進センターのデータなどを基に試算したものです。



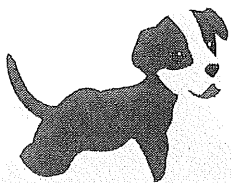
＜太陽光パネル設置例＞



飼い主の義務はきちんと守りましょう!!

犬の飼い主(管理者)は、「犬の登録の届出」「狂犬病予防注射の接種」の2項目について、必ず行うように法律により義務付けられています。まだ、犬の登録及び狂犬病予防注射をされていない場合は、早急に行ってください。

狂犬病の予防接種は生後91日以後であれば受けることができます。



来月は12月6日(日)が「やつしろ環境の日です!」

八代市では、毎月第1日曜日を『やつしろ環境の日』、『やつしろ健康の日』としています。地球が喜ぶ生活をおくこと(CO₂ダイエット)は、私たちの体も喜ぶ生活(体重ダイエット)につながります。環境のこと、健康のことを考えた生活を楽しんでいきたいものですね……。